

# 2018 年度事業報告書

2018 年 4 月 1 日から  
2019 年 3 月 31 日まで



## 7. 理事会・評議員会

理事長名	金淳次
理事数	12名
評議員数	13名

## 8. 教職員の現況

	専任	兼任	合計
教員	14名	17名	31名
職員	4名	0名	4名
合計	18名	17名	35名

## 9. 生徒数

	1年	2年	3年
中等部	4名	12名	9名
高等部	17名	24名	21名
合計	87名		

## II. 教育活動状況

2018年度は開校10周年を迎え、現在のKISの教育活動が建学の精神と教育理念に基づいた教育活動になっているのかを再確認し、安定した教育環境を整えていくことを最重要課題に据えて取り組んだ。

具体的には、①学校教育の質向上、IB教育の本格的な推進、②KIS教育の広報強化（教育シンポジウムの開催、生徒募集）、③学生主体の記念行事実施（文化祭、体育祭等）、④卒業生同窓会設立、⑤後援会拡大の5項目を掲げて実行してきた。

### 1. KIS教育活動の充実

KISの教育理念実現と存在意義を高めるための戦略として、文科省及び大阪府の行政指導のもと一条校認定取得と財政基盤安定化のための公的資金獲得の道を模索しその実現に向け取り組んできた。

1) 校務全体においては部長会議を中心に、教務部、学生支援部、進路指導部、IB推進委員会、IT管理委員会、広報委員会、保健委員会、対外交流委員会、管理委員会の機能の強化に引き続き力を入れた。

とりわけ教務部においては、教務システムのIT化を進め、授業運営（進度表結果と法定時数の比較分析実施）、学籍管理、成績管理（システム管理を担当中心に）、試験運営（欠試者の成績処理方法等）において改善があり、校務分掌を整理し文書分類表、教務規定の原案完成などにおいて前進があった。日常的な授業展開に対する点検・評価・指導を行い、授業の質向上のための外部研修などへの参加も積極的に行った。

2) 2018年度はコリア国際学園にとってIB元年であった。IBカリキュラムの確立と十分な教育の提供、

自己探求と内部評価、最終試験の合格、進路実現など2年間のサイクルが続くなか、現状に応じてIB選択制の導入、カリキュラムの見直しなど柔軟に対応してきた。大阪府唯一の日本語 DP 実施校として他のIB校との交流や連携も深めてきた。

3) KIS 教育の特色である3言語の教育とりわけ英語力の向上を重要な課題とし、現状卒業時に十分な英語力を持つ学生が10%程度である現状から卒業後に英語圏へそのまま進学できる程度の英語力を持つ学生を育成するための英語教育を目指すこととした。はじめて実施した English Camp は生徒たちが日常生活において英語を使うきっかけとなり今後の英語運用能力向上が期待される。

4) 中等部学生の基礎学力の定着が重要という観点から中1中2の段階で一定の基礎学力と学習習慣を体得することに関心を注ぐこととした。

## 2. 学生生活支援

1) 「自立」(自らの将来への責任感)と「自律」(その実現のために思考や行動を律する)をキーワードに学習と学級活動、その他教育活動において中1から高3までの発達段階に応じた「自立」と「自律」の達成を支援するようにした。

2) 学生生活支援における年間目標として、①自主的で創造的な学校生活、集団生活、自治活動を展開できるよう支援し、②個人と集団に対する尊重心に基づく秩序の確立を目指し、③学生の愛校心を高めることと設定し進めてきた。

学生会、学級委員会活動において、委員会創設により学生一人ひとりに役割が生まれ責任感が増し、クラブ活動の拡大、各種プロジェクトによるESDパスポートを活用したボランティア活動などがさらに活発に推進された。今後生活指導においてはルール違反に対する指導の具体化、ルールの再検討の必要性が課題となった。

## 3. 進路指導の取り組み強化

「学校認定」、「指定校」拡大のための大学訪問を積極的に展開した結果、新たに受験資格を「学校認定」してくれた大学は5大学(立命館大学、関西大学、京都外国語大学、大阪国際大学、大阪経済法科大学)、新たに指定校推薦をくれた大学は2大学(京都外国語大学、大阪経済法科大学)であった。

「さんぼう」によるキャリア探求プログラム(高1対象に月1回2コマ、高等部を対象に『コミュニケーション力を高める』をテーマにした専門講師による講演会、中高等部全体を対象に『職業別ガイダンス』)を実施した。

9期生の進路実績としては、指定校推薦:京都外国語大学(外国語学部・英米語学科、日本語学科、国際貢献学部・グローバル観光学科)、AO入試:立命館アジア太平洋大学(国際経営学部)、公募推薦:大手前大学(国際看護学部)、一般入試5大学(大阪経済大学人間科学部・留学生、京都造形芸術大学芸術学部、京都外国語大学外国語学部・フランス語学科・帰国生、関西外国語大学外国語学部・英米語学科、龍谷大学国際学部・センター併用)、専門学校4校であった。

今後の課題としては、引き続き学校生活を通して人生のビジョンや目標を見つけさせ、適材適所の観点で進路指導を展開するとともに、センター入試の変化とそれに伴う私大入試の変化などを勘案して受験先の選定、AOや推薦入試と併せて一般入試の準備を早い段階で進めて行くことなどである。

#### 4. 10周年記念行事と生徒募集

1) 開校から10年を振り返り、KISの存在と教育成果を内外に広報する目的をもって11月17日に10周年記念シンポジウムを開催(197名)した。第一部講演「若者パワーを未来に向けて」、第二部卒業生と在校生によるパネルディスカッションは全体として良い反響であった。年明け1月には卒業生同窓会が設立された。

2) 学生数減少の中、KISの教育成果を効果的にアピールし学生募集につながる仕組みづくりを目指して、在日コリアン社会だけでなく地域や海外での認知度を高める必要性が拡大する状況で、短期的な対策と中長期的な戦略をたて学生募集を推進した。

#### 5. 運営の安定化

財政基盤の確立はコリア国際学園の存続にかかわる切迫した重要課題である。公的資金の獲得、経費の削減、協力者の拡大を中心に当面の対策と中期的な対策を推進してきた。